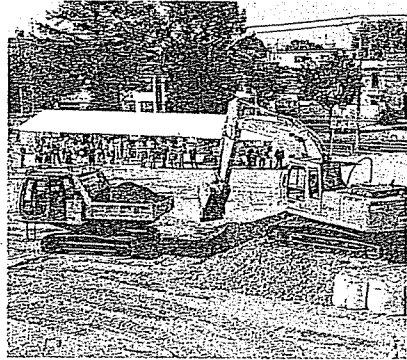


# 宮坂建設が防災訓練実施 100人が本番さながらに

## 免震、耐震工法のパネル展等も



を通し、自社の災害対応マニュアルを確認した。合わせて、帯広中央公園で無人バックホーの実演、災害対策用品、非常食の展示や免震、耐震工法のパネル展も行った。

【帯広発】宮坂建設工業(株)帯広、宮坂寿文社長は二十六日、本社および札幌支店の職員約百人が参加し、防災訓練を実施し写真。帯広開建、帯広土現と協定を結ぶ河川のパトロールや災害無線による通話の確認など、本番さながらの訓練

同社では十数年来、災害対応において「災害対応マニュアル」を作成し、発注官庁と連携のもと、地域住民の安全確保のため防災部隊として職員、資材、機材を二十四時間体制で待機させている。平成十五年の台風10号や十勝沖地震発生時

にも帯広開建、帯広土現などの発注機関と協力しながら、機動力を生かした迅速な対応で被害の拡大を防ぐなど発注官庁、地域住民の信頼も厚い。

近年、大規模災害の発生が増加していること、またその対応について様々な問題が指摘されていることを踏まえ、昨年から社内の防災訓練だけでなく、関係官庁とも連携する形で、広くこの訓練を知ってもらおうと対外的に公開して実施している。

当日は午後一時三十分、帯広市近郊で震度5、札幌市近郊で震度4の地震が発生したとの想定のもと訓練を実施。停電発生のため自家発電機の運転を開始、同時に同社二階に災害対策本部を設置、河川の被災状況の確認のため、十台のパト

ロール車が発するなど緊迫感の漂う中、行動した。また、災害は大型化、広域化していることから対策本部ではテレビ会議システムを使用し、札幌支店とも情報を共有しながら訓練が進められた。

今回は、帯広中央公園で無人バックホーの操作状況の見学会やIAU免震工法、ピタコラム耐震補強工法に関するパネル展のほか、災害対策用品、非常食の展示も行われ、関係者が多数見学に訪れていた。

# 建設 9/28

## 宮坂建設が防災訓練

### 重機遠隔操作で土砂運搬

【帯広宮坂建設工業本社・帯広、宮坂寿文社長】は26日、地震などを想定した防災訓練を行った。開建や土現など関係官庁の担当者らも招き、重機遠隔操作による土砂運搬訓練などを繰り広げた。

同社は大規模な災害発生に備え、自社の施工現場だけでなく、地域の安全確保のため各種資

材を準備し、迅速に出動できる態勢を整えている。昨年から十勝沖地震(2003年)が発生した9月26日を「防災訓練の日」と定め、各関係官庁との連携の下、災害対応訓練を実施している。



料は本社と札幌支店の社員合わせて100人が、訓練に臨んだ。午後1時30分、震度5強の地震が発生、市内が停電したとの設定で開始し、自家発電で電力を供給。管内9河川の緊急パトロールや主要な建物の点検を指揮する災害対策本部では、同社会議室に設置した無線機を使い、現地部隊に作業を指示、被害状況などの報告を受けた。

同公園には各種の緊急資材、防災グッズ、非常食の試食、同社の免震・耐震補強工法などを紹介するブースも並び、来場した関係官庁の担当者らの関心を集めていた。

会社近くの帯広中央公園